

＊座談会

岡山の谷口秀夫・大学改革担当理事、福井工業大学の池田岳史・学長補佐を招き、「地域からのグローバル人材育成」「大学改革」をテーマに座談会を開いた。司会は、行成靖司・読売新聞大阪本社科学医療部長。

地域からのグローバル人材育成

「地域からのグローバル人材の育成について、取り組みや狙いを聞きたい。谷口 我々はまず「グローバル人材とは何か」を議論し、広い視野で周囲と協調性を持てる人間だと結論づけた。そのうえで、学生が「三つの基礎力」（教養と専門と日本語も含む語学）を身につけ、複数の学部で学び、社会との接点を持ち、異文化を体験するプログラムを設けた。あらゆる

世界と協調 広い視野で

る場面で適切な判断を下せる人材の育成を目指し、岡山県や地元の経済界とも協力して進めている。池田 「グローバル」という、グローバルとローカルを組み合わせた造語をキーワードにした。柱となるのが、2013年度に導入した英語教育プログラム「SPEC」だ。英語を聞いただけで抵抗感を持つ学生が多いので、4年間を通じて、英会話中心で、親しみを感じながら学べる内容にした。教員10人中8人が英語を母国語とする外国人だ。卒業に必要な外国語の単位は以前の倍の20単位と厳しくしたが、学生や親からも好評だ。

「福井には眼鏡製造という世界的な産業がある。そこに狙いを定めている」ということはないのか。池田 グローバルをテーマに据えたのは、地元経済団体などからの要望がきっかけだ。海外に拠点を持つ地元企業も多く、英語が完了とまでいかずとも、「3か月を留学に使っても単

位が取れるように配慮する。大学改革 大学は待たないの改革を迫られている。両大での取り組みは池田 今こそ入学定員を3年連続で満たしているが、福井工業大では志願者が2008年まで減り続け、06年から7年間定員割れが続いた。当時、私は職員も兼務して学生を募集する立場にいたが、危機的な状況と受け止めていた。改善計画は毎年議論されたが実現せず、11年に経営側から経費・教員削減、学部学科再編を求められるに至った。検討組織も、経営側の判断で若手の職員と教員で構成することになった。

この方針に沿って、教育や研究の内容をわかりやすく伝える取り組みは成功し、志願者数は回復した。地元出身の職員を入れ、改めて地域での立ち位置を明確にできたことが大きい。谷口 私は学長から改革担当に指名された。学長のリーダーシップがないことには動かない。あとは周りがどう支えるかだ。私は、協力者として学長補佐を3人選んで戦略を練った。学部長と1対1で会い、意見を聞いた。そこでは記録を取らず、他学部の問題点も気兼ねなく話せる自由な議論にした。改革は戦略だ。進め方を間違えると失敗する。情報の出し方を間違えれば抵抗があっても進まなくな

岡山大大学改革担当理事 谷口秀夫氏



九州大工学研究科修了。NTT、NTTデータ通信などの勤務を経て九州大助教授、2003年に岡山大工学部教授。14年から現職。専門は情報工学。

大学関西フォーラム 第18回懇話会

解決力学ぶ



阪南大学長「建学の商業人の育成を盛り、地域と世界を結ぶる教育の構築を目指す。3年生の演習科目「キ」では、学生が大抵ど外国人観光客の誘いしたり、ファッションと組んで製品の海外戦略を練ったりし、こうした能動的な学び課題を解決する力を

個性どう出すか



佐藤武司・大阪経済大理事長 「懇話会では、少子化やグローバル化を受けて長期的に対応する工夫を聞いて、有意義だった。教授会が改革のプレーキになる傾向があったが、4月施行の改正学校教育法で教授会の権限が抑えられることになり、理事会のリーダーシップで改革を進めやすくなった。大学の個性をいかに打ち出すのが焦点。大阪経大らしさを前面に、社会に役立つ学生を育てたい」

長期就業体験も



大城光正・京都産業大学長 「二つのキャンパスに文系学部と理系学部が共に集い、様々な価値観を共有し刺激あふ空間になっている。先輩が後輩の学習や就活を自主的に支援する活動が広がり、自ら考えて行動する力を養っている。今年から、学生が派遣先から報酬を受ける長期型の就業体験を始めた。日本では珍しい試みだが、仕事に対する責任感を自覚できる、貴重な機会だと考えている」

防災の成果還元



西沢良記・大阪市立大学長 「公立大に求められている地域の課題解決に貢献する創造力を発揮し、都市防災教育研究センター」を設けて、巨大地震に備えた研究成果を地元に戻元する取り組みを進めている。地域の課題もグローバルな視点で解決手段を探る時代だ。今年から世界的な視野で大阪の課題を考える講義を行い、地元の文化に精通しつつ、国際社会で通用する力も備えた人材を育成したい」

探求心を持つとう



金沢成保・大阪産業大学長 「携帯端末の登場でいつでもどこでもネット検索ができるようになり、知識を頭にためておくという努力する習慣が学生の間に希薄になった。創造性は膨大な知識なしには生まれにくいから、学生たちには知的好奇心や探求心を持つてほしい。そのためにも、自ら課題を見つけて深く考える姿勢を入学後のできるだけ早い時期に身につけられるよう、教育を進めていきたい」

研究を紹介 志願者回復

私は作成する文書に非常に大胆なこと、例えば「この学部は再編が必要ではないか」といふことを書いた。こうした文書は誤解を招くので、電子化して誰もが見られるような状態にはしない。私には作成する文書に非常に大胆なこと、例えば「この学部は再編が必要ではないか」といふことを書いた。こうした文書は誤解を招くので、電子化して誰もが見られるような状態にはしない。

教育問題 積極的に

断力を重視する教育、高校生の学力や力を判断する新しい方法の導入が求められています。どれも正解を見いだすの